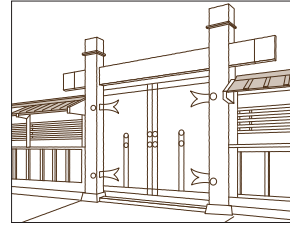
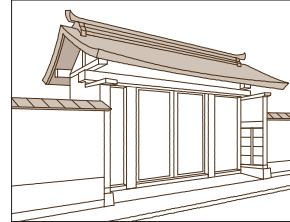


gate design

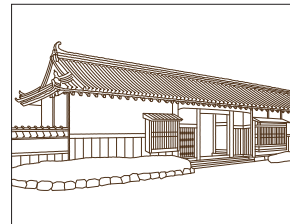
日本の場合、伝統的にはその家の身分や生業によって建物様式が決まっていたので、門は外部に対して家人を語る外観表現の一要素でもありました。



冠木門(かぶきもん)
2本の本柱の上を1本の横架材(冠木)でつないだ門で、屋根はついていない形式。中世ではお城の門としてよく用いられていました。



棟門(むなもん)
2本の本柱の上を冠木でつなぎ、切妻屋根を高く架けたもの。格式の高い門で、この棟門からさまざまなデザインの門が分化しました。



長屋門(ながやもん)
近世の武家屋敷に多く用いられた形式。大名が家臣を住まわせる長屋(住居)と門を兼ねた複合建築が発祥なので、空間があるのが特徴です。



GM宝塚清荒神の長屋門

古き良き門は土地の心であり、受け継ぐべき文化です。(吉田)



GM宝塚清荒神/長屋門特有の空間スペースを活かし、自転車置き場として計画。

「スクラップ&ビルドが長く続いてきた日本でもようやく伝統建築物の継承が進み、とくにGMは周辺環境との調和やその土地の伝統の継承を根本的な思想としてきました。GM宝塚清荒神の例で言えば、長い年月、土地の景観の一部を成してきた門を残すことで街並みとの調和を図るだけでなく、積極的にその地域らしさを守り、受け継ぐことを目指したのです」(吉田)

門のある風景を残す
ただ、門が果たす役割はそれらだけではありません。門は住む人の顔であると同時に、街の顔にもなるからです。
GMでは建物にふさわしい門を新たにデザインするだけでなく、敷地に既存の良い門があればそれをうまく残して計画した事例があります。

「GM宝塚清荒神では敷地にあった長屋門を活かしたのですが、80年代という近所の方が幼い頃からこの前の道を通るたびに目にしてきた門だそう、風景の保全をとても喜んでくださっています。また、建築に造詣の深い方がこの長屋門を見学したいと遠方から足を運んで来られるケースも少なくありません。古き良き建築物は土地の心であり、文化でもあるのです」(吉田)

集合住宅における門の機能だけを考えれば、そこにあった門も塀も壊して新たに造り変えることもできますし、日本ではその方法を取る時代が長く続いてきたことも事実です。ヨーロッパでは何百年も経ている集合住宅をリノベートして現代の家族がごく当たり前に使っていますが、それは歴史のあるもの、時を経たものへの尊敬が文化的背景として根強いからでしょう。

門のある風景を残す

門を構える集合住宅

そもそも門とは、敷地と外部を区切る塀や垣に通行のために設けられた出入り口のこと、敷地境界を明確にする機能を持つています。
集合住宅における門の役割とは、何なのでしょう？
「まず、内と外をつなく、あるいは遮蔽する機能ですね。外部に向かっどう開くかがデザインになるのは、戸建でも集合住宅でも同じです。門扉を省略してゲートのみで構成するデザインは、伝統的な門の形式で

「GM宝塚清荒神では敷地と外部を区切る塀や垣に通行のために設けられた出入り口のこと、敷地境界を明確にする機能を持つています。集合住宅における門の役割とは、何なのでしょう？
「まず、内と外をつなく、あるいは遮蔽する機能ですね。外部に向かっどう開くかがデザインになるのは、戸建でも集合住宅でも同じです。門扉を省略してゲートのみで構成するデザインは、伝統的な門の形式で

MANSSION考 集合住宅における門構え

この門が開く物語

人生において、私たちはいろいろな門をくぐります。
桜が咲く頃、初めて足を踏み入れる学校の門、お稽古ごとやスポーツへの入門、青春の門……。門は人を迎え、送り出す「出入口」であるだけでなく、内と外を区切り、その内に広がる世界を外に向けて語るものでもあるのです。そこで今号では、従来、集合住宅において語られることの少なかった「門構え」について採り上げてみました。



talking member 大阪マンション事業部
(右から順に)
●吉田 和也:商品計画室 係長/一級建築士・宅地建物取引主任者/趣味は読書/休日にはできるだけ子どもと過ごします
●西村 等:商品計画室 課長/一級建築士/趣味はカメラ・絵画・スキー/仕事は懸命に、家ではゆったりがモットー
●岩田 成光:分譲営業室 分譲営業4課 店長/宅地建物取引主任者/ダーツと旅行が趣味です
●内藤 淳:技術管理室 課長/一級建築士/趣味は食べ歩き・温泉・ゴルフ/休日は緑の中でのんびり過ごします

GM宝塚清荒神 (兵庫県)



長屋門をくぐれば、灯籠と石積みがお出迎え。樹木の種類が多いので、季節ごとにいるような表情が歩みを誘います。



玄関エントランスに到着。現代らしいモダンな建物もこれほど奥まって位置しているので、周辺の街並みと調和できるのです。

緩やかにくねる石畳の道を進めば木立が深くなり、まるで別荘地のような趣。緑の中で垣間見えるのが、マンションの建物です。



GM夙川松園町 (兵庫県)



シンメトリーで重厚な石の門構え。植栽の石積みには地元ゆかりの深い御影石を用いて、由緒ある街の風景を創っています。



アプローチを進んで、玄関エントランスに到着。囲われた空間でありながら空が抜けているので、表情にゆとりがあります。これも、上質な出迎えのデザインです。

門をくぐれば、アプローチはすぐに左に折れます。この風景の変化と玄関までの距離が、邸宅らしい「格」になるのです。



門は邸宅の象徴。「住宅集合」だからこそ、かなえられる門構えがあります。(吉田)

「以前は集合住宅を、いつか一軒家を建てるまで、ひとつの通過点として捉える方が大半(岩田)」

「門をくぐって出入りするたび、ここに暮らす誇らしさのようなものを感じるといふ感想をいただくことが多いですね。そういう気持ちが生まれることで共有部も自分の家の一部であると思える、それも門を構えるメリットのひとつでしょう。わが家意識は愛着を深め、居住者コミュニティの醸成にも不可欠なものですから」(岩田)

「格」になる

戸建住宅の場合、住まいの「格」は門から玄関までの長さ、つまりアプローチにどれだけ余裕があるかでかなり左右されますね。「集合住宅の場合も同じことが言え、ただ立



門からエントランスにたどり着くまでの距離、風景の変化が建物の「格」になるのです。(内藤)

「大きな庇に長い塀、そして門は日本の邸宅の象徴でしたが、現代の戸建住宅でそれらを望んでも敷地やコストなどの条件で実現が難しいことも多いでしょう。しかし集合住宅の場合、居住者共有の財産として計画できますから、建物の格を高める門構えを実現しやすいのです。」

「派手な門を造ったらそれで完成ではありません。玄関までのアプローチをわざと屈折させて距離感を出し、歩を進めるたびに風景が変化するなどの工夫を凝らします」(内藤)

「さきほど、門がセキュリティ機能を高める、三重のロックになるという話が出ましたが、門からのアプローチが長ければ外界から自分の世界に戻るプロセスが十分とれますね。徐々に襟を外しながら家が帰るような笑」(岩田)

「そう。お客様を招いた場合でも、門から建物の玄関、そして住戸の玄関までの風景の変化がそこに住む人のセンスや生き方を語ってくれ



東京テラス(東京都) / 青山学院大学の跡地に計画。赤煉瓦の門と塀はもろろん、キャンパスの既存樹も活かすことで都会のリゾート感を創出した例です。



GM大濠プレイス(福岡県) / 木々の植栽によって幹線道路の喧騒から住環境を守りつつ、邸宅の顔としての演出も行なったデザインです。



GM西九条B10(大阪府) / 現代の冠木門ともいえる、オープンゲート。街に向かって明るく開きながら、侵入者の心理的抑制もきちんと確保されたデザインです。



GM白壁櫻明荘(愛知県) / 名料亭として知られた建物の長屋門を活かした事例。内部の空間は、居住者のコミュニティスペースとして計画されています。



門は、パブリックな建築要素。周辺環境を捉え、そこにふさわしいデザインを発想することが大切です。(西村)

「この前に立つと、わが家だと思える」

「もちろん、古い門であるからこそ、現代のライフスタイルに合うように最新のセキュリティ技術を注ぎ込んでいます。だからこそ安心して、次の世代へと渡していくことができます。」

「ただ、私たちは既存の門を残すことだけを目的にしているわけではありません。建物を先に計画してその残りの敷地に門やエントランスを配置するのではなく、周辺の環境から発想してふさわしい形と位置を考えればこの門はどうあっても残すべきだ、そういう必然性があつて取り組んでいることです。」

「ですから場合によっては門を移築しますし、そこに由緒のある樹木や石積みが残っていれば門と二階に残して活かせたいだろうかと思えます。それがGMの流儀だと思っています」(西村)

「日本の住まいで門といえば、戸建住宅のイメージがありますね。新しい世界へ踏み出す人生の節目を、門出と呼んで家族で記念写真を撮るのも、わが家の門口が多かったのではないのでしょうか。」

「しかし近頃は興味深い現象が起きており、戸建住宅で門を構えないオープンな外構が珍しくなくなる一方で、集合住宅で潇洒な門を構えるケースが増えています。その理由は何なのでしょう。」